

【社会】 < 中学校 第1学年 >

1 結果のポイント

「地理的分野」について、正距方位図法をもとに任意の都市の位置を読み取る問題や、八方位の活用や縮尺を用いて実際の距離を求める問題では正答率が70%を上回っている。

地図と地球儀を活用する問題や、時差を活用し地図上のある場所の時刻を求める問題では正答率が60%を下回っている。また、表にある数値を計算してグラフ化する問題や、地形図の等高線を読み取り断面図として表す問題、実際に略地図を描く力をみる問題では正答率が50%を下回っている。

「歴史的分野」について、時代の特色を示すことがらや代表的な資料(十七条の憲法)の内容について該当するものを選択する問題では正答率が75%を上回っている。

世紀などの年表の基本的事項の理解や、各時代の代表的な文化財についてその特色の理解をみる問題では正答率が60%を下回っている。

鎌倉時代の人々の生活の様子について、他の時代の特色とのちがいを判断する問題や、複数の資料から内容を読み取り、それを使って適切に自分の考えを記述する問題では正答率が50%を下回っている。

2 結果の分析

(1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

問題 **5**の1 **5**の3

5 1 年表中の にあてはまる時代名を書きなさい。(年表は略)

結果 正答率 63.5% (正答...奈良)

分析

この設問は、「年表を読み取る基本事項として『時代区分』についての理解」をみる問題である。誤答を分析すると「天平」「弥生」等の事例が見られる。また、1割程度の無回答が見られる。このことから、「時代名」という言葉の意味が十分に理解されていないことが分かる。

5 3 カードBの人物は、日本を従えようと1274年と1281年の二度にわたって攻めてきました。「元寇」と呼ばれるこの二度の襲来は、何世紀のできごとですか、数字で書きなさい。(カードBは略)

結果 正答率 52.2% (正答...13)

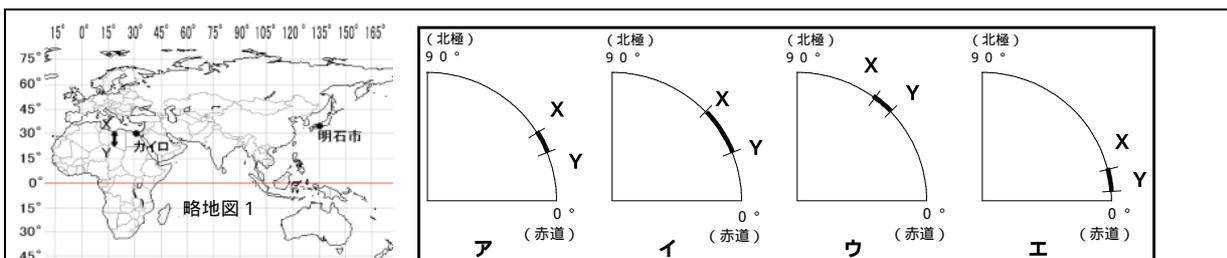
分析

この設問は、「『世紀』についての理解」をみる問題で、昨年度の正答率(45.8%)を上回っている。しかし、誤答を分析すると、「12」以外にも「14」と答えた事例もある。「元寇」の「元」と【年表】の「元」の時代を示す帯の幅の大きさから、「14」と回答したことが考えられる。

以上から、「我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を理解させる」ために不可欠な、時代区分や世紀の意味やきまりについて繰り返し指導し、定着を図る必要がある。

(2) 「資料活用・表現」の力をみる問題の例

問題 **1**の1 **4**



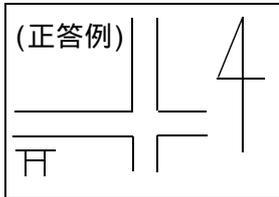
1 1 略地図1のカイロを首都とするエジプトは、緯度では、その大半がXとYの間に位置します。その範囲を示したものとして、最も適切なものを図3を参考にして、次のア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。(図3は略)

結果 正答率 56.7% (正答...ア)

分析

この設問は、「地球上の位置関係を表すために使われる緯度や経度について、地図上だけでなく地球の断面図上や地球儀などを活用してとらえることができるか」をみる問題である。昨年度の類似問題の正答率を10%程度上回っており、地図等を活用し、資料を読み取る力は高まってきていると考えられる。なお、①の1、①の2の問題の誤答を分析すると、イが多いことから、緯度については、地球儀と地図それぞれの特性を踏まえて理解させること、経度・時差については、地図や具体的事例を基に理解させる指導を工夫する必要がある。

④ 花子さんは、太郎さんに略地図を書きながら、自分の家の場所を説明しています。下の「花子さんの説明」を読んで解答用紙の略地図を完成させなさい。
「花子さんの説明」：太郎さんの家()の西側の道路を南へ行くと、右側に市役所()が見えてきます。その交差点を西に進むと、左側に神社(〒)が見えてきます。私(花子)の家()は、道をはさんで神社の北側にあります。



結果 正答率 33.4%

分析

この設問は、「与えられた情報を手がかりとして、実際に略地図に書き表すことができるか」をみる問題である。誤答を分析すると、「太郎さんの家()の西側を南へ行く」ことまでは、正しく記されているが、市役所の位置が道路の東側に描かれている例が多い。このことから、景観を地図の規則の下で取り出し、位置や空間的な広がりとのかかわりで理解することが不十分であることが分かる。③の1は「知識・理解」の力をみる問題であるが、正答率が75%であり、昨年度の同様の問題よりも向上している。誤答では、エが多く、「A点から()の方位に進む」ことについては理解できているが、「郵便局から見て」と問われると八方位を正しく答えられないといえる。

これらより、観察や調査活動を基に地域的特色をとらえる指導を、大縮尺の地図を活用する技能を高める指導とかかわらせて身に付けさせるよう指導を工夫する必要がある。

(3)「思考・判断」の力をみる問題の例

問題 ⑤ の4

⑤ 4 カードCの人物が活躍する100年ほど前に、日本は長く続けてきた「遣唐使」を停止しました。そのことによる影響として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。
ア 国家のおこりや、天皇が国を治めるいわれを確かめる動きがおきた。
イ 日本の風土や生活、日本人の感情に合った文化が生み出された。
ウ 公家の文化と武家の文化の融合がおきた。
エ インドや西アジアなどの文化の影響を受けるようになった。

C 藤原道長
娘たちを次々と
天皇のきさきにし
て、勢力を伸ばし、
摂関政治を行った。

結果 正答率 69.2% (正答...イ)

分析

この設問は、「遣唐使の停止をきっかけにして、平安時代の文化が国風化していったことを考えることができるか」をみる問題である。誤答を分析するとウが多く、各時代の大きな特色(例、公家の社会、武家の社会)が理解できていないことが文化を理解するうえでの妨げとなっている。また、⑥の1は、「各時代の様子を示す文化財から、室町時代の代表的な文化財を選び、その特色を理解しているか」をみる問題である。完答のため、正答率は41.4%であるが、分析すると室町時代の代表的な作品(B)が正しく選べた場合は、文化の特徴も正しく判断できている事例が多いということが明らかになった。

また、⑤の2は、「各時代の主な出来事や資料から、時代の特色をつかみ、時代の流れを判断することができるか」をみる問題である。正答率は、昨年度の同様の問題よりも10ポイント上昇した。しかし、⑤の6の「鎌倉時代の人々の生活の様子について、他の時代の特色との違いを考えて判断することができるか」をみる問題の正答率は50%を下回っている。このことから、時代と政治の流れを結び付けて考える力は育ってきているが、時代と人々の生活を結び付けて考えることに課題があることが分かる。

こうしたことから、政治、外交、社会生活などにかかわる歴史的な事象を多面的・多角的に考察することで各時代の特色を明らかにするとともに、明らかにされた各時代をとらえる見方や考え方で、各時代の歴史的な事象をとらえ直してみる指導の充実を図る必要がある。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

基礎的・基本的な知識や技能を活用する時間の確保を！

次のような学習内容を必ず指導計画に位置付ける。

- ・地図や地球儀を活用して、緯度や経度の意味を理解しながら国の位置を確認したり時差を求めたりする学習
- ・観察・調査や大縮尺の地図を活用して、身近な地域を調べる学習
右記の「身近な地域を調べるポイント」(教科書 地理的分野 48頁)参照
特に、観察するルートを決め、ルートを地図に記入したり略地図やルートマップを作成したりして活用する学習が大切である。
作業的な学習を指導計画に位置付ける。
- ・常に八方位を用いて位置を確かめる指導や、等高線を活用して断面図を描いて地形のようすを明らかにする学習
- ・地図記号を活用して土地の利用別に着色をする学習
- ・調査結果を用いて図表や地図で示す学習

身近な地域を調べるポイント

—身近な地域を見直す—

次のような活動を通して、身近な地域を見直してみよう。

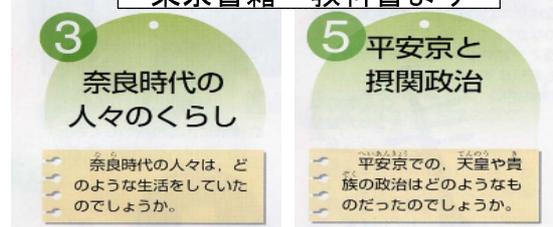
- ① 実際に歩いて観察する。
- ② 高い所から地域をながめてみる。
- ③ 空中写真や景観写真を見る。
- ④ 地形図を読む。
- ⑤ 地形図や写真を用いて、昔と今を比較してみる。
- ⑥ 統計や資料から読み取る。
- ⑦ インターネットを活用する。

教科書のP61～63「統計地図のつくり方」「イラストマップのまとめ方」参照

多面的・多角的な見方や考え方が身に付くよう単元指導計画の工夫を！

- ・各分野において、学習指導要領が示す内容を踏まえ、多面的・多角的に社会的事象を考察できるよう単元指導計画を工夫する必要がある。例えば、右図のように、時代を政治、生活、文化などの面で学習したり、幕府の立場、農民の立場などから社会的事象をとらえたりする学習を意図的に指導計画に位置付けることが大切である。

東京書籍 教科書より



適切な時間の配当を！

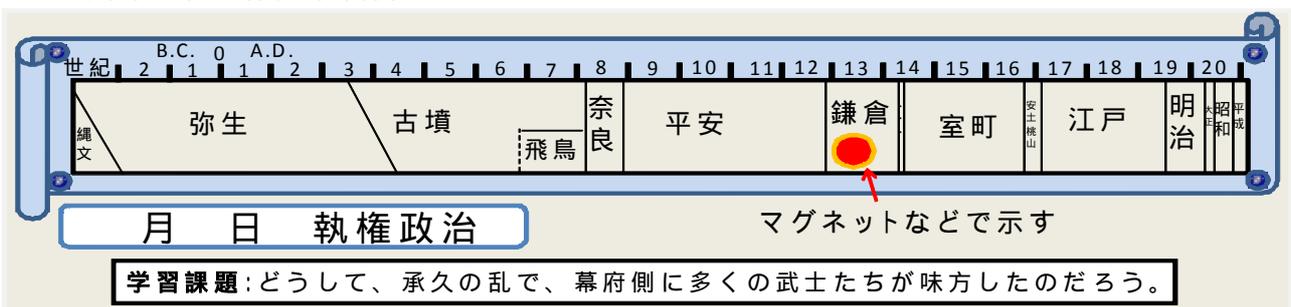
- ・地理・歴史的分野とも、各分野の指導内容や指導時間に偏りが生じることがないように改善する。
- ・特に、歴史的分野の学習においては、「政治・人々の生活・文化」を「時代の特色」と結び付けて単元を構成するよう工夫することが大切である。
- ・文化の学習においては、代表的な作品名を理解するだけでなく、資料から分かったことや感じたことを交流することで文化の特色をつかむとともに、時代の特色と結び付けて考える学習が必要である。

(2) 指導方法の工夫改善 本誌、中学校第2学年の「分析を踏まえた指導の改善」を参照

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成

地理的分野の学習の時間は「地図」を、歴史的分野の学習の時間は「年表」を板書に！

<歴史的分野の時間の板書例>



- ・歴史的分野の学習では、黒板等に上記のような「線年表」を常に位置付け、本時の学習内容が、「いつの時代の、何世紀頃の出来事なのか」を生徒が毎時間意識することができるよう「本時に学習する時代や時期」をマグネット等で板書に示す。
- ・地理的分野の学習（内容によっては、他の分野の学習でも）では、教室に必ず掛け図を用意したり、地理的事象について地図帳でその位置やようすを確認したりする学習を位置付ける。
- ・このような学習を繰り返し行うことで、地図上の位置や年表中の時代等について、生徒の理解度を確認するとともに、生徒自ら地図や年表を利用する学習姿勢を育てる。

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科教育等 学力向上P」授業改善（H16～18）及び授業改善推進プラン（H19～）」を参照する。<http://www.gifu-net.ed.jp/gec/>

•